



—遠藤れい子県議が9月県議会で一般質問。知事に県民の声を届ける—

今こそ、医療体制の強化を！



写真は20年2月県議会で一般質問に立つ遠藤れい子県議

10月4日、遠藤れい子県議は一般質問に立ち、花角知事の姿勢を質しました。

《質問項目》

1. 新型コロナウイルス感染症対策
2. 地域医療構想について
3. 気候危機打開のため

※今号より、数回に分けて報告します。
※議場での写真撮影は不可でインターネット中継の写真撮りましたが粗いので、1年前の写真にしました。

新型コロナウイルス感染症対策について

1. 今こそ、医療体制の強化をはかるべき

新型コロナウイルス感染症は、急速な症状悪化が予測できないことが指摘されており、症状に応じた適切な対応が必要とされる。

本県における自宅療養者数は、ピーク時(8月29日)には923人にも上り、病床や療養施設

に提供すべきである。この冬、感染第6波の襲来が懸念されるも、軽症者に適切な抗体力

クテル療法が行える臨時の医療施設の設置や、外来や自宅療養者への投与も可能とする

めに

4. 原発問題について
5. 農業問題について
6. デジタル化問題について

などの対策が必要と考える。知事の所見を伺う。

2. PCR検査の拡大で感染拡大を抑えること

感染伝播の鎖を断つため、PCR検査をいつでも・だれでも・何度でも「行えるようにし、無症状感染者の早期発見と保護をおこなうべきと考える。

学校、学童クラブ、保育園などでインフルエンザの流行が重なる危険性なども指摘されている。感染者数が減少傾向にある今こそ、大規模・定期的PCR等検査に踏み出すべきと考える。

あわせて、保健所の統廃合がすすみ、大幅に削減されてきた医師・臨床検査技師・保健師等の体制の抜本的な強化をはかるべきと考える。知事の所見を伺う。

3. 自粛要請とセットで十分な補償を

飲食業、旅行・宿泊業などの疲弊は深刻さを増し、事業継続さえ困難となっている。国に対して再度、「持続化給付金」「家賃支援給付金」の支給を強く求めるべきと考える。

「総合支援資金」でも生活再建できない生活

困窮者に再度一時金支給も必要ではないか。

1人親家庭や「子ども」の貧困」の支援をおこなう「子ども食堂」や「フードバンク」、学生への食糧支援を行う民間団体は善意とボランティア精神で支えられ、人物・金の不足が訴えられている。県の支援を求める。

市民連合と政策協定を締結！

新潟5区・米山隆一氏力強く決意表明

10月1日、長岡市内 新潟「ここから」の呼び

で、市民連合@新潟の皆さんの「変えちゃえ」の予定候補者のみなさんが集結し、政策協定の締結が行われました。

協定書に署名した後、各予定候補者が決意表明。5区の米山隆一さんも力強い表明。マスコミカメラも多数取材。



左から、米山隆一(5区)、菊田まき子(4区)、市民連合@新潟代表の佐々木寛さん

さあ、市民と野党の共闘で総選挙勝利!!

比例は「日本共産党」、選挙区は野党統一候補に!